



Q：バセドウ病について教えてください（50代女性）

A：バセドウ病は、甲状腺の甲状腺刺激ホルモンレセプターに対する自己抗体が原因で、甲状腺が刺激されて甲状腺ホルモンの産生が過剰になり、甲状腺機能亢進症となる病気です。30～50歳で発症することが多く、女性に多い病気です。誘因として、妊娠・出産・感染・精神的ストレスなどが関与していると考えられています。ですが、どうして自己抗体ができるのか、まだよく分かっていません。

甲状腺ホルモンは、全身の新陳代謝を高めるホルモンなので、産生過剰によって代謝

が異常に活発になり、さまざまな症状を呈します。甲状腺腫大、頻脈、動悸（どつき）、息切れ、異常に暑い、汗を異常にかく、手指の震え、むくみ、脱毛、神経過敏になる、落ち着きがない、いらいらする、食欲は異常にあるが痩せてくる、軟便・下痢、生理不順、筋力低下、倦怠（けんたい）感、眼球突出、複視（物が二重に見える）などです。



診断は、甲状腺ホルモン値を測定しますが、甲状腺刺激ホルモンレセプター抗体が90%以上の症例で陽性になる、と言われています。

岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニッコー北口駅前ビル2F

TEL0555・2888・18001